

もくじ

□ 研修の目的	… 3
第1章 研修講師とは	
□ 研修講師の役割	… 7
□ 研修講師の振る舞い	… 9
□ 演習1	… 12
第2章 研修の進め方のコツ	
□ 事前準備のポイント	… 15
□ 研修の雰囲気づくり	… 17
□ 演習2	… 19
□ 研修での話し方・進め方のポイント	… 20
□ 演習3	… 27
□ 受講者対応のポイント	… 28
□ 振り返りのパターン	… 33
□ アクシデントの対応	… 35
第3章 ディスカッション	
□ グループディスカッションの進め方	… 39
第4章 フィードバックスキル	
□ フィードバックのについて	… 45
□ 演習4	… 49
第5章 質問スキル	
□ 効果的な質問の使い方	… 53
□ 演習5	… 56
第6章 まとめ	
□ 演習6	… 59

研修の雰囲気づくり

受講者の多くは、緊張感や不安感を持って、研修に参加しています。また、自分の意思で参加する人もいれば、会社の指示で参加する人もいます。知らない人同士の場合は、緊張した雰囲気になりますので、なるべくリラックスした雰囲気を受講できる雰囲気づくりが必要です。

講師の雰囲気が明るければ、明るい雰囲気での研修は進み、暗ければ、暗い雰囲気での研修が進みます。良い雰囲気の研修を心がけて、研修を成功させましょう。

研修の雰囲気づくり

(1) 研修のオープニングで、講師に必要なこと

- ・ 笑顔で、明るく、ていねいにあいさつをする
- ・ 講師が自己開示をし、受講者が話しやすい雰囲気をつくる
- ・ 経歴だけでなく、現在の気持ちも伝えるとよい
- ・ 受講者との距離を縮める工夫をする
- ・ 研修のゴール、ねらいを明確に示す

(2) 研修での雰囲気づくりに必要なこと

- ・ 受講者の名前をできるだけ覚え、指名するときは名前と呼ぶ
- ・ 参加者の特徴やバックグラウンドをつかむ
- ・ 研修でのルールを提示し、全体で共有する
- ・ アイスブレイクを行う

(3) オリエンテーションで取り入れること

- ・ 研修に参加してくれたことに感謝の意を表す
- ・ 質問は気軽にしてほしいことを願う
- ・ 能動的に参加してほしいことを願う

アイスブレイク

アイスブレイクとは、文字通り「氷を砕く」、つまり、緊張した硬い雰囲気を打ち砕き、和やかな雰囲気での研修を進めるために使うテクニックです。初対面の人が集まる研修での雰囲気づくり、あるいはすでに顔見知りの場合でも、研修という新しい場での雰囲気づくりに役立ちます。研修では、最初の自己紹介などに使うと効果的でしょう。



時間の目安

1:10～(全体7分)

■ 講義 / 7分



進め方

講義



(5分)

《導入》

「受講者が研修を受ける際には、どのような講師だろうか、研修についていけるだろうか、どういう人たちと一緒に研修を受けるだろうかなど、様々な不安を持ってやってきます。それらの不安をできるだけ取り除いて、積極的に研修に取り組んでもらえるよう、講師は、受講しやすい雰囲気をつくりましょう。」

< 講義ポイント >

(1) 研修のオープニングで、講師に必要なこと

受講者は、緊張している人が多いので、できるだけリラックスして意欲的に取り組めるように、講師は笑顔で歓迎の気持ちを示す。

(2) 研修での雰囲気づくりに必要なこと

- 受講者を名前で呼ぶことで、一人ひとりに関心があることを示すことができる。胸に名札がない場合、簡易的な机上名札を作ってもらってもよい。
- どのような受講者が参加しているか、研修担当者に聞いておくこと進めやすい。
- 研修のルール、例えば、「時間厳守」、「積極的に発言する」などがあれば、提示する。
- 自己紹介などを利用して、アイスブレイクを行う。(⇒次項参照)

(3) オリエンテーションで取り入れること

- 受講者がやる気になるのは、「参加目的がはっきりしている」、「研修内容が業務に活用できる」、「研修内容に興味がある」研修である。オリエンテーションで、学習目標とゴール(研修で得られる成果)を明確に示し、受講者をやる気にすること。
- ただ講義を聴くだけの受け身の姿勢ではなく、疑問点は積極的に質問し、演習にも積極的に参加してほしいことを願う。

講義



(2分)

➤ アイスブレイク

緊張した雰囲気を打開するため、自己紹介などで、アイスブレイクを活用するとよい。